

# 平成 28 年（第 5 期）事業報告書

（平成 28 年 1 月 1 日～12 月 31 日）

公益社団法人 国際 IC 日本協会

## I 総括

### 【はじめに】

（公益社団法人 5 年目、成果が見えてきた事業運営における改善努力・・・新しい組織体制）

公益社団法人国際 IC 日本協会（旧 MRA 日本協会）は、昭和 50 年(1975)任意団体として設立され、9 年後の昭和 59 年(1984)に文科省所管の社団法人となり以後 29 年間の歴史を刻んだ。その後平成 24 年(2012)内閣府所管の公益社団法人となり 4 年半を経過。平成 28 年度は、4 年余り続いた地道な経営改善努力が実ってきて財政健全化が進んできた。一方で役員の実業責任を明確化、事務局体制の強化、理事会運営の効率化等、好ましい進化の兆しを確認することができる。これは将来に向けて大きな潜在的成長性を有しており、以下に述べる如く特筆に値する。

□事業運営方法を個人依存型からチーム力へ（役員と事務局チームが連携して取り組む）

- ・ 学校訪問プログラムの見える化と『選考委員会』の新設

学校訪問プログラムについて、海外からの応募者選考の公平性を担保するために「選考委員会」を設置。実際の学校訪問プログラムも北九州市や小田原市では教育委員会の仲介、訪問地でのサポーターやボランティアの参加協力を得られた。

- ・ 第 38 回国際フォーラム 「実行委員会」方式が定着

「第 38 回国際フォーラム」の企画運営に当たって、担当理事及び主要メンバーが「実行委員会」を構成しチームプレイで臨んだ。堅実な活動実績と成果には、「少数個人依存型」から「チームによる取組み」への変化が定着、運営プロセスの「見える化」が進んだ。

- ・ 「ビジョン検討委員会」の始動

当協会の方向性を検討する試みは、平成 28 年 11 月に「ビジョン検討委員会」が立ち上がり、Skype 活用による遠距離間同士の会合実施や、合宿計画やファシリテーター育成の検討を開始した。

□役員（理事・監事）の第 2 回選挙実施と役員の役割分担制度スタート

- ・ 第 2 回目となる全正会員による選挙実施

全正会員による選挙の結果、立候補者 12 名と理事会推薦者 3 名の計 15 名の理事と 2 名の監事が、第 5 回定時会員総会で就任した。続く臨時理事会で、矢野会長代表理事（重任）、田中副会長兼専務理事（新任）が選任され就任した。

- ・ 役員「役割分担制度」のスタート

公益事業 I～V の運営を「個人依存型」から「役員の役割分担型」へ移行、長く続いてきた特定個人に多大の負担が係る事業運営を脱皮するために、役員（理事並びに監事）が持つ経験力・専門能力・ネットワーク力などを最大限に活かした仕組みの構築を目指す。

□新事務局体制への移行（女性中心の事務局態勢を役員がサポートする）

- ・ 事務局長の交代並びに経理体制の引継ぎ

長年に亘り、組織の要となってきた長野事務局長が退任後、新体制へのつなぎ役として中山氏が 1 年間就任。その間、後任事務局長の採用活動を実施、新たに清水氏が就任した。併せて 4 年間経理を担当して財務基盤の改善に努力された加藤理事も退任予定で業務の引き継ぎが重要課題。

□外部ネットワークと広報活動

- ・ NBC 長崎放送 TV 特別報道番組「道徳再武装の世界一周」の放映

平成 28 年 3 月 26 日の TBS 系の全国ネットに約 30 分間にわたって放映。戦後 70 年企画の一環として同 TV 局が制作。昭和 25 年の大型代表団のスイスコー訪問（当時の広島市長・長崎市長なども参加）を中心にまとめた特集番組である。広島原爆慰霊碑の碑文「安らかに眠って下さい。過ちは繰返しませぬから」の出自とその意味が改めて国会でも取り上げられた。

- ・ 増補改訂版図書「日本の戦後を決めた 10 年」の出版

藤田理事の訳による増補改訂版が26年ぶりに平成28年秋に自費出版された。国会議員をはじめ、書中の関係者にも改めて関心を持たれ、ほぼ同時期アメリカのオバマ大統領による初めての広島訪問と原爆碑の前で慰霊と歴史に遺るスピーチが行われた。同書は正会員・賛助会員全員（210冊）及び関係先に贈呈された。

- ・静岡県だより「鼎談：アジア太平洋の未来について（川勝静岡県知事・ガンジー氏・矢野会長）」平成28年5月東京で行われた三者の鼎談記事が、静岡県だより(11月号)に紹介された。2013年インドで開かれたCIB会議以来続いてきた両者の関係の象徴であり、日印のパートナーシップの一つで、矢野IC会長の仲介によるものである。

## II 事業活動の概要

### 【公益事業1】 国際会議の開催による国の健全な発展及び世界平和に資するための事業

＜事業名＞第38回 IC国際フォーラム (The 38th Initiatives of Change International Forum)

＜事業の実施期間＞ 2016年11月5日(土)～6日(日)

#### ＜事業の概要＞

会議の主テーマを「見つめよう！ 自分を、日本を、世界を」、副テーマを「あなたが社会に生きる価値を示そう」と定め、国内外から招聘した多様な背景を持ち様々な経験を積んだ講演者から広くIC(Initiatives of Change)や世界情勢について学ぶ機会を持った。グループミーティングや講演等を通して、相互に尊重し合う感性を養った。参加者は85名（内訳は海外10名、一般60名、学生13名、留学生2名）小学生から80才を超える老若男女が参加した。

#### ＜事業の成果＞

様々な背景を持つ国内外の参加者と話し合い、自分自身を見つめ、どのような家庭を築き、どのように社会貢献するか、持続可能な平和な世界を目指すための役割は何かを参加者が考えた。

#### （招待講演者の言葉）

ニケツ・イラル氏(インド) 自身が父親に正直になったことから個人の小さな一歩を契機に家庭が変わり地域に改革をもたらした体験を話した。また北東インドの人種問題やミャンマーのロヒンギャ難民に触れ、ダライラマの言葉を引用し「20世紀は史上最も乱暴な世紀だったが、21世紀は対話の世紀にしなければならない」と括った。

石川成幸駐日ベネズエラ・ボリビア共和国特命全権大使 ベネズエラの政治・経済の現状を話した後、ベネズエラの奇跡といわれる「エルシステム」に言及した。「エルシステム」は貧困地域を含む同国全土で実施されている音楽を利用して市民を育てるプログラムで、幼少期から集団で合奏することにより責任感・協調性・自己肯定感を育成し、子供が変わることで家庭も変わるという同国の取り組みを語った。

イマッド・カラム氏(パレスチナ) 著名なドキュメンタリー映画監督として活躍するが、IC本部のCaux(スイス)で和解をテーマとしたプログラムに参加した際に初めてイスラエルの市民と会う機会を持ち、今ではイスラエルに個人的に信頼できる友が居ることを語った。

レンジョー・リュウ氏(台湾) 夫人と共に台湾及び中国本土で「行動する中国人」プログラムを主宰し中国の青年が母国の将来の為に貢献すること、その為に生きることを理解し、自分の在り方を見つめ直すことに取り組んでいることを動画をを用いて紹介した。

#### （海外ICチームからのメッセージ）

ICの海外チーム(米国、豪州、ノルウェー、ナイジェリア)からビデオメッセージが寄せられ、日本が「アジアの灯台」としてこの地域が希望を見失うことなくよりよい社会への不変の光を放ち続けるよう期待する等のメッセージが伝えられた。

#### （ワークショップ「こころの持ち物けんさ」）

日本の学生が主導したワークショップ「こころの持ち物けんさ」は、自分にとりかけがえのない大切なものを確認した上でそれを失くしたことを想像し、その自分への気づきを元にして、難民の人たちの心の痛みに寄り添うために「自分にできることは何か」を考えるきっかけをつくること、また難民について正しく知ってもらうことを目的としたもの。参加者は想像を超える不安や

喪失感に思いを馳せた。

(パネルディスカッション)

パネルディスカッションは、「あなたが社会に生きる価値を示そう」とのテーマで、日本、韓国、台湾、インドネシアからのパネリストが、IC活動の経験や家族との関係改善の体験を披歴した。

(参加者の感想)

一方、参加者からは次のようなコメントがあった。

海外参加者：日本のICフォーラムで学んだことを活かし、帰国したら自分も新しい地域の在り方のために尽くしたい。

日本人学生：自分の考えを自分だけに止めておくのではなく、まわりの人に発信していくことの大切さと、また伝えることで更に多くの人から学びの契機となること、そこからまた何かが起こり得る大きな原動力となることを、痛感しています。

日本人60代：団塊の世代にも役割があることに改めて気付かされた。自分より若い人達に、彼らにより良い生活が送れるよう発信していきたい。

講演者：(10代の参加者の質問に対し) 全てに恵まれている日本の若者が世界の貧困に関心を持っていることは素晴らしいことで、驚きでもある。

\*このプログラムは、一般社団法人東京倶楽部の助成を受けています。

## 【公益事業2】 青少年の健全育成事業

### ア. 学校訪問プログラム (実施期間：平成28年5月6日～6月6日)

(概要) 学校訪問プログラム2016の総括

- (1) 平成14年(2002)度に始まり、14年目を迎えた本年度の学校訪問プログラムは、5月6日の来日より6月6日の離日までの1ヶ月間、当初の計画を完全にやり遂げて無事に終了した。
- (2) 今年度は、国際的な連携による、IC広報面の成果で海外からの応募者が13名の多数に上り、日本では初めて「選考委員会」の設置に繋がり、チームで対応した。その結果、選考結果見直しの難問にも、首尾よく対応できた。チームでこの事業を担う機運が生まれてきた。
- (3) 海外からの4人のボランティアチームと日本のサポート体制がうまく協働し、よいチーム作りと協力体制作りを経験できた。
- (4) 本事業の実施面で要となる引率者・通訳者の確保に苦労を伴ったが、幸い解決できた。
- (5) 訪問先の実績 20校
  - 小学校 9校 ①大田区洗足池小 ②嬉野市立大草野小 ③つくば市立上郷小学校 ④つくば市立沼崎小 ⑤つくば市立今鹿島小 ⑥小田原市立矢作小 ⑦小田原市立下曾我小 ⑧小田原市立桜井小 ⑨小田原市立下中小
  - 中学校 5校 ①北九州市立二島中 ②北九州市立洞北中 ③北九州市立向洋中 ④嬉野市立塩田中 ⑤つくば市立豊里中
  - 特別学校 2校 ①門司特別支援学校 ②つくばインターナショナルスクール
  - 短大・専門学校・大学 4校 ①お茶ノ水医療専門学校 ②中村大学女子短大 ③精華女子短大 ④一橋大
- (6) マスコミ取材 3件 ①北九州市 NHKのローカル番組 ②北九州市 毎日新聞 ③小田原市 神静民報
- (7) ホストファミリー 9軒2泊 (首都圏 4軒 九州 1軒 小田原 4軒)  
\*訪問先ホテル・旅館 3箇所 8泊

(学校訪問ボランティア・メンバー)

1. アスマ・ラシッド・マラズイさん (インド)
2. イドリス・デイニー・フィルドウシさん (インドネシア)
3. チョン・ミンハさん (韓国)
4. チョング・テイ・ミ・ホアさん (ベトナム)

(訪問場所)

- |                          |              |
|--------------------------|--------------|
| 1. 東京での学校訪問              | 5月11日、6月3～5日 |
| 2. 北九州市・福岡市・佐賀県嬉野市での学校訪問 | 5月15日～24日    |
| 3. つくば市での学校訪問            | 5月25日～27日    |
| 4. 小田原市での学校訪問            | 5月29日～6月1日   |
- ※このプログラムは、一般財団法人MRAハウスの助成を受けています。

## イ. インターンシップ・プログラム

### (ICにとっての重要性)

ICのネットワークに日本の青年たちが加わり、世界で活躍できるリーダーシップを養い、インターンやボランティアとして、各国センター（インド、スイス、オーストラリア等）へ派遣する。このことが、今後のIC活動を担っていく青年を育て、世界への貢献へとつながっていく。

### (派遣プログラム・・・アシスト)

#### ①山田真輝さん（慶應義塾大学3年生）

インドICセンターでのインターン生（期間：平成27年9月1日～平成28年1月31日）として、センターでの様々な会議やICの歌や劇を通してメッセージを伝え、運営にも携わった。特に1月下旬に開かれたCIBの会議中の活躍ぶりは、日本人参加者に深い感銘を与えた。修了して帰国後は、勉学の傍らIC交流会の講師を務めるとともに、第38回国際フォーラムの実行委員として積極的な貢献を行った。インド側の責任者の一人 Suresh Vazirani 氏からは、今後これを制度化して毎年10人の日本人青年を派遣できないかの打診があった。

#### ②前田梓さん（早稲田大学2年生）

インドICセンターでのインターン生（期間：平成28年2月1日～6月30日）として参加。修了後は、インドネシアで開かれたAPYCに運営サポート、第38回国際フォーラムの実行委員として参加、ワークショップ（命の持ち物検査）を主宰するなどユニークな貢献を行った。

## 【公益事業3】 個人と家庭の健全な発展に資するための事業

### ア. 各種交流会（IC交流会）

（概要）会員間の相互理解と信頼を深めるために、「ICと私」の基本テーマの下に、夫々の活動紹介や人生を語る機会とした。ICの精神やその実践による体験等を分かち合うことにより、相互に学び合うと共に新たなネットワークを築く場ともなっている。（第3日曜日が定例会としてほぼ定着）

（開催内容）次のテーマ及び日程で計9回（前年は8回）開催された。

- ①1月度「ICと私・・・平凡な人間の非凡な人生」長野清志氏（当協会専務理事）1月17日 20名
- ②2月度「ICと私・・・日印のパートナーシップは最強のコンビ」中山啓介氏（当協会理事事務局長）  
2月21日 12名
- ③4月度「ICと私・・・ICとガンジー氏から教わった若者の現代を生きるコツ」山田真輝氏（慶応大学生）4月17日 19名
- ④5月度「学校訪問チーム 海外ボランティア4名の歓迎会と自己紹介」  
アスマ・ラシッド・マラズイさん（インド）、イドリス・ディニー・フィルドウシさん（インドネシア）、チョン・ミンハさん（韓国）、チョング・テイ ミ ホアさん（ベトナム）  
5月8日 28名
- ⑤6月度「ICと私・・・かけがえのない賜物」兼松恵氏（当協会理事）6月19日 20名
- ⑥7月度「ICと私・・・教師としての体験」田口ヤス子（当協会理事・日体大職員）7月17日 14名
- ⑦9月度 各種プログラムの参加報告会（報告者）  
「第22回アジア・太平洋青年会議（APYC）」 中田幸子氏  
「第13回東北アジア青年フォーラム」周晴雯氏（明治大学大学院）  
「第2回日韓大学生討論会」中山啓介氏 「コー世界大会への参加報告」加藤光久氏  
「CATS参加報告」木村陸君（中学3年生） 9月18日 22名

- ⑧10月度「ICと私…JHP学校をつくる会」佐谷隆一氏（当協会監事・学校をつくる会理事）  
10月18日 10名
- ⑨12月度「北アイルランド紛争を解決に導いたエンカウンターグループの記録」  
金生郁子氏（当協会理事・福岡香蘭短期大学講師） 12月18日 19名

#### 【公益事業4】 国際相互理解と友好を促進するための共同事業

##### ア. インドIC主催のコー・イニシアティブス・フォー・ビジネス（CIB）会議への協賛

国際IC日本協会が共催者となり、2005年以来、隔年毎に開催。社会的責任（CSR）と持続可能な社会を目指して、共に研鑽し合いながら10年の実績を積み重ねてきた。前回（2013年度）のCIB会議から、日本側共催者が国際IC日本協会からCRT日本委員会に変更され、2015年以降国際IC日本協会は協賛者になった。当初予定されていた会議が2016年1月に順延されたことを受けて、CRT日本委員会が企業人向けの参加者募集を行い、国際IC日本協会は一般人向けの参加募集を行った。

##### イ. 第2回日韓大学生討論会及び第13回東北アジア（日中韓）青年フォーラム

韓国MRA/IC協会本部の主催により、2つの会議が次の通り行われた。

###### 1) 第2回日韓大学生討論会

□開催時期 8月21日～22日（1泊2日）

□開催場所 ①国際青少年センター 中会議室（ソウル特別市内）  
②国会議員会館 小会議室（同上）

□メインテーマ：韓・日未来志向的な協力案

サブテーマ： 1) 北東アジア平和のための両国の協力

韓国側の課題提起と主張発表 朴珉緒（高麗大校）

日本側の対応討論と主張展開 大石理加（日本大学）

サブテーマ： 2) 文化交流並びに人的交流の拡大

日本側の課題提起と主張発表 水澤みのり（日本女子大）

韓国側の対応討論と主張展開 金聖斌（ソウル女子大校）

###### （会議の概要）

□基調講演「日韓関係の回顧と展望」

趙世嘆東西大学教授（元外交官で日本研究センター所長）の基調講演は次の3点で示唆を与えた。

- ①日韓関係の最初の50年は、第一段階は政府が主導、次なる50年は民間が主導すべきである。
- ②日韓関係は短期的には上下変動が大きく見えるが、50年の長期で見ると好感度は上昇傾向。
- ③次なるビジョンは南北統一。それには周辺諸国の理解と協力が不可欠である。

□日韓大学生討論会

- ①日韓両国の次世代リーダーである青年達が直接会って、不安や怖れを乗り越え、同じテーマの下、領土問題や歴史問題についても本音で意見を交換しえたことは、相互の意見の違いや考え方の違いを理解し合う上で意義のある一歩となった。
- ②日韓両国の青年達が、両国の恒久的な平和を定着させるための共同のビジョン作りに関与し合意文書にまで仕立て上げた。

###### 2) 第13回東北アジア（日中韓）青年フォーラム

□開催時期 8月22日～26日（5泊6日）

□開催場所 ①AWコンベンションセンター（ソウル特別市内）  
②国立中央青少年修練院（天安市）

□メインテーマ：青少年と職業

サブテーマ： 1) 未来の社会と青少年の職業選択（韓国）

2) 青少年の起業と職業の創出（中国）

3) 青少年の職業教育と力を発揮していくために（日本）

□上記2つの会議へ日本からの参加者

参加大学生（9大学14名）10名が初参加、4名が2回目

日本大学（2名）、日本女子大、日本体育大学、早稲田大学、立教大学

- \*①ソウルの韓国外語大学に留学中の学生 3 名を含む。
  - \*②北京の山東大学に留学中の 2 名を含む。
  - \*③この中には日本の大学に留学中の 3 名の中国人留学生も含む。
- 内 1 人は、上述の如く現在韓国の大学に交換留学生として在籍中。

□引率者及び運営スタッフ ①田中副会長 ②成担当理事 ③中山事務局長  
□韓国・中国からの参加学生 韓国 21 大学 30 名 中国 12 大学 24 名

#### (会議の概要と成果)

- ① 今年のメインテーマは「青少年と職業」。これまでとは異なり、テーマは一見地味と思われるものであったが、日中韓 3 国の青年達いずれにとっても切実な問題である。グローバル化が進み AI 化が進む今日、同時代に生きる若者達にとっては共通のテーマであり、お互いの人生に最も切実な問題や課題を共有し合った。その意義は決して少なくない。
- ② このメインテーマは、上述の通り 3 つのサブテーマに分類され、今回のフォーラム参加学生は、そのいずれかのテーマを一つ選んで小論文を作成し、フォーラムに臨んだ。同時に、この 3 つのサブテーマは、それぞれ国別に上記の通りに割り当てられ、国毎・テーマ毎に全体会と分科会の討論を主導する役目を負った。
- ③ 日韓両国及び中国を含む東北アジア 3 国の青年達が未来志向的な協力関係（友人関係）を作ること、両国の関係改善並びに北東アジアの平和づくりへの貢献の一步となる認識が得られた。
- ④ 未来志向的な関係構築に当たり、文化交流並びに人的交流の拡大のためには、お互いの言葉を習得すること並びに共通語である英語習得の必要性を痛感した。特に日本の学生達には大きなインパクトと重要な意味を与えた。
- ⑤ 東北アジア（日中韓）の青年たちが、「職業」をキーワードに課題を共有し、東北アジアの未来に向けて共通のビジョンづくりと友達づくりの重要な契機となった。

#### ウ. スイス・コー国際会議

##### 【会議の概要】

2016 年 8 月 12 日から 17 日の 5 泊 6 日で開催されたシーズ・オブ・インスピレーションに、田口理事、加藤理事、松下真由美会員、加藤亮子会員の 4 名が（松下会員は通訳スタッフ）参加。この会議は今回が 4 回目、16 カ国から約 70 名が参加した。

##### 【国際会議場の第一印象】

Caux I of C が今年で 70 周年を迎えるという記念すべき国際会議とあって、祝賀ムードが漂っていた。とりわけ、コーパレス誕生の由来、独仏の和解、日本代表団の初めてのコー訪問、の 3 枚のパネル写真がひと際目を引いた。

##### 【シーズ・オブ・インスピレーションの模様】

今年のテーマは” Without Border” 「国境を超えて」  
オープニングセレモニーは、メリー・リーン氏、ジョン・ボンド氏、ウィリアム・レイ・ナイト氏、ニック・ファスター氏の挨拶。会議は午前中に、全体会議とファミリーグループ、午後からワークショップという構成である。今年は” Together Time” 「みんなの時間」と変えられており、広い会場をいっぱいを使って参加者全員が輪になってみんな一緒に行動するプログラムに変更されていた。

日本から参加の田口理事は、17 日の” Silence and Celebration” に登場、イギリスチームのスタッフのルイ・ゴードイレッド氏との対談形式で行われた。最終日の夜には、恒例のカルチャーナイトが催され、日本チームは持参した浴衣で、田口理事指導の” 桜、桜、弥生の空の、、、” の踊りを披露。

#### エ. スイス・コー IC 世界総会

今年度は諸般の事情により派遣を見送り、ノルウエーのカミラ・ネルソン氏（国際評議員）に代理委任することにより責めを果たした。

#### オ. 第 22 回アジア太平洋青年会議（APYC）

##### (概要並びに参加者)

2016 年 8 月 6-13 日の間「第 22 回 アジア太平洋諸国青年会議」が 13 カ国 90 名の参加者で開催。日本参加者 6 名のうち 2 名が、運営スタッフとして APYC 運営に貢献した。最終日には自分の決意を、分かち合い、各国からの参加者の間に強い信頼のネットワークが築かれた。

□期間中の6つのワークショップ

- ①持続的世界を築くための学び ②平和を築く女性のネットワーク ③紛争解決とグローバル市民  
④感受性訓練(ファミリーワークショップ) ⑤リサイクル活用による創造 ⑥芸術と運動

【公益事業5】 機関誌発刊並びにホームページによる啓発事業

(事業の概要)

個人、グループとして、日本を始め、世界各地で行われている様々なイニチアティブを紹介すること、会員相互の情報交流や啓発活動を支援するために、定期的に機関誌を「ICニュース」を発行する。ホームページを活用して、会員(個人・法人)の皆様に当協会の活動状況(議事録、イベント報告等)を伝達し、新規会員の募集やイベント参加募集等を効果的・効率的に行う。

(活動状況)

- ・第19号(3月13日発行): コー国際会議(コー開設50周年記念)の特集、東北アジア青年フォーラム等の報告と共に、インドICセンターでの日本の青年の活躍を伝えた。
- ・ホームページは、「会員サービス向上のための改善」を検討中。

III 庶務事項

(1) 第26回理事会 平成28年1月18日(月)15時~17時15分(於: IC事務所)

□出席者 理事7名(理事総数10名)、監事1名(監事総数2名)

□審議事項

- ア決議事項①CIB会議・・・2016年度[1月22日(金)~26日(火)]への要員派遣に関する件
- イ協議事項①日本ICの目指すべき方向性について
- ウ報告事項 4件

(2) 第27回理事会 平成28年2月8日(月)15時~17時25分(於: IC事務所)

□出席者 理事8名(理事総数10名)、監事1名(監事総数2名)

□審議事項

ア決議事項: ①第4期(平成27年1月1日~12月31日)事業報告書、計算書類、公益目的支出計画実施報告承認の件(監事からの監査報告を含む)

②理事会推薦による次期(平成28年3月13日~平成30年3月定時総会終結時)理事候補3名承認の件

③第5回定時会員総会の招集の件

(1)開催日時 平成28年3月13日(日)13時30分から15時

(2)開催場所 当協会事務所

(3)議案 I 第4期(平成27年1月1日~12月31日)事業報告書、計算書類、公益目的支出計画実施報告承認の件

II 次期(平成28年3月13日~平成30年3月定時総会終結時)役員選任の件 理事15名 監事2名

イ協議事項①日本ICの目指すべき今後の方向と取組方針について

②コー国際会議2016の参加募集・方針について

ウ報告事項 6件

(3) 第5回定時会員総会 平成28年3月13日(日)13時30分~15時10分(於: IC事務所)

□会員総数 163名 □議決権を有する出席者総数 95名(本人出席32名 議決権行使書63名)

□決議事項

第1号議案 第4期(平成27年1月1日~12月31日)事業報告書、計算書類、公益目的支出計画実施報告承認の件(監事からの監査報告を含む)

第2号議案 理事10名任期満了につき次期(平成28年3月13日~平成30年3月定時総会終結時)理事15名選任の件

第3号議案 監事2名任期満了につき次期(平成28年3月13日~平成30年3月定時総会終結時)監事2名選任の件

【審議結果】

事業報告及び決算は提案通り承認された。また、10名の理事と2名の監事の任期満了に伴い、新たに15名の理事（内重任6名新任9名）と2名の監事（内重任1名新任1名）が選任された。

（重任）大隈尚子 兼松恵 鈴木洋子 成豪哲 橋本徹 矢野弘典（以上理事）  
足立憲昭（以上監事）

（新任）石川勝一 太田和江 加藤光久 金生郁子 木村清隆 ゴタクンプラ カピラバンダラ  
田ロヤス子 田中章博 藤田幸久（以上理事） 佐谷隆一（以上監事）

(4) 第28回(臨時)理事会 平成28年3月13日(日) 15時15分～15時45分(於:IC事務所)

□出席者 理事14名(理事総数15名)、監事2名(監事総数2名)

□決議事項 第1号議案 会長選任の件 : 会長(代表理事) 矢野弘典(重任)

第2号議案 副会長1名(業務執行理事)及び専務理事(業務執行理事)選任の件  
副会長兼専務理事(業務執行理事) 田中章博(新任)

第3号議案 顧問等委嘱の件 : 名誉会長橋本徹(重任)、特別顧問河村建夫(新任)  
顧問 小笠原敏晶(重任)、高橋衛(新任)、長野清志(新任)、原不二子(新任)

(5) 第29回理事会 平成28年4月6日(木) 15時～17時(於:IC事務所)

□出席者 理事10名(理事総数15名)、監事1名(監事総数2名)

□審議事項

ア説明事項①公益法人の各機関の役割と責任について

イ決議事項①理事の職務権限規程一部改定承認の件

②長野前事務局長が雇用期間経過後において業務引継ぎ等で事務遂行を行ったことに対する処遇に関する件

③学校訪問プログラム2016実行計画承認の件

ウ協議事項①第13回東北アジア青少年フォーラムと日韓大学生討論会参加協力に向けて

②公共事業5部門と各事業の役割分担について

③事務局業務の新しい職務分担について

④広報機能強化の取組について

⑤日本ICの目指すべき今後の方向と取組方針について

エ報告事項 4件

(6) 第30回理事会 平成28年5月18日(木) 15時～18時05分(於:IC事務所)

□出席者 理事12名(理事総数15名)、監事1名(監事総数2名)

□審議事項

ア決議事項①理事の職務権限規程一部改定承認の件

②特定使用人に対する労働条件通知書(案)承認の件

③学校訪問プログラムの引率責任者(特定個人)報酬支払(案)承認の件

④協会のしおり作成計画(案)承認の件

⑤第13回東北アジア青年フォーラムと日韓大学生討論会参加募集承認の件

イ協議事項①公益社団法人国際IC日本協会組織図の改定について

②公益事業5部門と各事業の役割分担について

③理事の職務執行に関し自己申告制を導入することについて

④事務局業務の新しい職務分担について

⑤個人情報保護規程の改定(案)の説明

ウ報告事項 2件

(7) 第31回理事会 平成28年6月10日(金) 15時～18時(於:IC事務所)

□出席者 理事13名(理事総数15名)、監事1名(監事総数2名)

□審議事項

ア決議事項①第13回東北アジア青年フォーラム及び日韓大学生討論会参加募集に際し、  
航空券確保のための内金支払いの件

②賛助会員企業に国際フォーラムの参加案内を1枚贈呈する件

③グローバルアッセンブリー[7/1~3(2泊3日)]へ代表派遣に関する件

イ協議事項①特定費用準備金取扱い規則の制定について

②9月以降の理事会の持ち方(案件・日程・書記役の設置)について

③「第一回中日友好作文コンクール」に関する中国国際交流協会からの  
取組み要請に関して

ウ報告事項 6件

(8) 第32回理事会 平成28年7月22日(金)15時~18時(於:IC事務所)

□出席者 理事10名(理事総数15名)、監事1名(監事総数2名)

□審議事項

ア決議事項①第13回東北アジア青年フォーラム及び第2回日韓大学生討論会参加申込者の  
報告並びに協会役員及びスタッフ派遣の件

②個人情報保護規程改定案の一部再改定の件

③ホームページ運用規程制定の件

④特定費用準備金制度制定の件

⑤特定の業務に関わる場合の交通費補助制度(上限)の制定の件

⑥東海林仲興会計士との顧問契約締結の件

⑦学校訪問プログラム2016の実績報告並びに報告書作成承認の件

イ協議事項①9月以降の理事会の持ち方(日程)について

②拡大チームミーティング(1泊2日)の開催について

ウ報告事項 3件

(9) 第33回理事会(書面決議) 平成28年9月9日(金)14時~16時(於:IC事務所)

□出席者 理事7名(理事総数15名)、監事2名(監事総数2名)

□審議事項

ア決議事項①IC国際フォーラム2016実行計画案の承認

②事務局長後任人事の承認

イ協議事項①拡大チームミーティング(1泊2日)での協議事項について

ウ報告事項 5件

(10) 第34回理事会 平成28年10月14日(金)14時~16時(於:IC事務所)

□出席者 理事8名(理事総数15名)、監事1名(監事総数2名)

□審議事項

ア決議事項①定款一部変更(案)承認の件

②非常勤職員1名新規採用承認の件

③新規雇用者に対する労働条件通知書の交付並びに現行勤務者に対する  
同通知書改定承認の件

④事務用家具(書庫)・器具・備品購入承認の件

⑤交通費補助制度(上限)承認の件

⑥ICたより19号増刷承認の件

イ協議事項 次年度主要事業課題の取組み及び予算編成方針について

ウ報告事項 3件

(11) 第35回理事会(書面決議) 平成28年11月11日(金)14時~16時(於:IC事務所)

□出席者 理事7名(理事総数15名)、監事2名(監事総数2名)

□審議事項

ア決議事項①I of C国際本部からの要請(ICブランド:ロゴマーク見直しの検討開始)に対  
し返信承認(追認)の件

②富士Calmでの1泊2日の会議日程(平成29年2月)決定の件

③増補改訂版図書「日本の戦後を決めた10年」の50冊購入と配付計画承認の件  
イ協議事項①平成29年度の総会・理事会等主要日程について

②平成29年度事業計画案の作成について

③平成29年度収支予算案作成について

ウ報告事項 2件

(12) 第36回理事会 平成28年12月12日(月)14時～18時(於:IC事務所)

□出席者 理事10名(理事総数15名)、監事1名(監事総数2名)

□審議事項

ア決議事項①平成29年度事業計画(案)承認の件

②平成29年度収支予算(案)承認の件

③ICセミナー[平成29年3月4日(土)・5日(日)福岡]へスタッフ派遣承認の件

④テレビ受像機購入の件

イ協議事項①来年度理事会の年間日程(平成29年4月～12月)

②来年1月以降の事務所の勤務体制に関する件

③増補改訂図書「日本の戦後を決めた10年」の贈呈・活用計画に関する件

④第13回東北アジア青年フォーラム2016参加者(山口育海)に関わる航空運賃  
処理に関する件

⑤来年度交流会の年間日程(平成29年1月～12月)に関する件

⑥ICたよりの名称変更の件

ウ報告事項 3件

2. 登記事項

平成28年3月13日(日)の定時会員総会と引き続き開催された臨時理事会の選任決議を受けて、5月16日代表理事並びに理事・監事の変更登記申請を行い受理された。

<内訳は下記の通り>

□代表理事・矢野弘典

□重任(理事) 大隈尚子・兼松恵・鈴木洋子・成豪哲・橋本徹・矢野弘典 (監事)足立憲昭

□新任(理事) 石川勝一・太田和江・加藤光久・金生郁子・木村清隆・ゴタクンブラ カピラバン  
ダラ・田口ヤス子・田中章博・藤田幸久 (監事)佐谷隆一

□退任(理事) 岡本綾子・高橋衛・長野清志・中山啓介 (監事) 石井統市

3. 役員に関する事項

平成28年3月13日(日)の定時会員総会に引き続き開催された臨時理事会に於いて、以下の通り  
役職役員の選任を行い、それぞれ就任した。

<内訳は下記の通り>

□会長(代表理事) 矢野弘典(重任) □副会長兼専務理事(業務執行理事) 田中章博

(新任) □名誉会長 橋本徹(重任) □顧問等 特別顧問 河村建夫(新任)

顧問 小笠原敏晶(重任) 高橋衛(新任) 長野清志(新任) 原不二子(新任)

\*①今回退任された顧問 大竹美喜 谷川和穂 羽田孜 藤田幸久 狩野安の各氏

\*②小笠原敏晶氏は、去る11月30日逝去により退任された。

4. 職員に関する事項

①中山啓介事務局長は平成28年11月30日付け、契約期間(1年)満了により退任。

②清水葉子氏が、3か月の試用期間を経て平成29年1月末をもって正式に新事務局長に就任。

③平成28年1月より天澤典子氏、平成28年11月より河井和子氏を新規雇用。

④加藤光久理事の経理業務は平成29年1月より、上記3名のスタッフに引継ぎ開始。

以上